

## 1 カンボジア復興支援プロジェクトの概要

### (1) 経緯と目的

広島県では“創り出す平和”の実現に向けて、平成15年3月に『ひろしま平和貢献構想』を策定し、「記憶する」、「発信する」、「支援する」という理念のもと、人材育成、医療・心のケア支援、NGO支援、復興支援などの平和貢献プロジェクトを実施してきた。

それらを実行に移していくために具体的な取り組みを検討する過程において、21世紀の世界が直面している課題の中で、最も緊急かつ重要なものに挙げられる紛争終結地域における復興こそ、広島の経験を活かせることができるのではないかと判断し、広島にもっともふさわしい平和貢献として、紛争終結地域の復興支援をテーマとして取り上げることとした。

支援活動を行うに当たっては、

- ・紛争がほぼ完全に収束し、情勢が安定しており、多様な復興のニーズを抱えている
- ・反日感情がなく、現地に溶け込みやすい
- ・仏教国であり、文化的にも類似性が高い
- ・日本と地理的に近く、連携が取りやすい

といった観点から、カンボジア王国（以下、「カンボジア」と記す）を選定し、モデル事業を実施することとした。

まずは、カンボジアにおいて情報収集し、地方自治体における役割の検証、支援活動のための課題抽出を行うため、平成14年度に現地に調査団を派遣した。

平成15年度には、県内のNGOや関係機関と現地で展開するNGO等との連携のもと、復興支援に関するニーズや具体的条件等の把握及び広島発の復興支援の実現可能性に係る現地調査を実施し、地方自治体が多く経験を蓄積している分野のうち、教育と保健医療分野の支援ニーズが高いことが明らかとなった。

平成16年度には、教育、保健医療分野の専門家及び実務協議者等を派遣して、現地の関係者と活動を共にしながら両分野の詳細調査を実施し、平成17(2005)年度以降の具体的な支援策について検討した。

現地調査の実施後、県内の関係機関と連携したカンボジア勉強会において検討された支援活動が、独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業〔地域提案型〕に採択されたため、平成17年度から3年間、JICAと連携したプロジェクト（「カンボジア元気な学校プロジェクト」）を実施することとなった。

活動地域は、平成16年度の調査時に、現地関係機関と協議の上、選定したカンボジアの北西部にあるシエムリアップ州プク郡ササースダムとし、広島県における教育、保健医療分野の専門家を現地に派遣した。

教育分野においては、最重要課題とされている初等教育における教育能力（学校運営・授業能力等）を向上させることにより、カンボジアの将来を担う人材の育成に資すること、また、保健医療分野においては、小学校での保健教育を行うとともに、保健センター職員の育成等を通じて、保健センターを中心とした地域の健康改善への活動を促進し、地域の公衆衛生水準の向上を図ることを目標に、3年間、支援活動を実施した。

(2) 派遣団，現地活動日程

今回のプロジェクトでは，広島県内の人材，情報，技術を活用するため，広島県教育委員会をはじめ，大学関係者，県内の医師，看護師，保健師など，県内関係各機関や個人の多くの方々の協力により実施することができた。

【1年次（平成17(2005)年度）】

〔前期〕平成17年11月27日(日)～12月18日(日)

〔後期〕平成18年2月6日(月)～3月10日(金)

区分	氏名	所属等	期間	
実務協議 ・ 総括	水本和実	広島市立大学広島平和研究所助教授	11月27日～12月4日 2月24日～3月10日	
	後藤昇	県総務企画部国際企画室事業調整監	3月1日～10日	
	坂上隆士	県総務企画部国際企画室主任企画員	2月20日～27日	
	山口涼	県総務企画部国際企画室主事	11月27日～12月4日	
支 援 活 動	教育	岡寺裕史	県教委広島教育事務所指導主事	12月4日～18日
		池田武彦	県立教育センター指導主事	2月10日～27日
		桑山尚司	広島大学大学院教育学研究科助手	2月13日～3月3日
	保健医療	小林敏生	広島大学大学院保健学研究科教授	11月27日～12月11日
		西村有永	太田川病院看護師	12月1日～18日
		飛松好子	広島大学大学院保健学研究科教授	12月9日～18日
		白井睦子	安田女子大学家政学部助手	2月20日～3月6日
		西條恵美	呉市保健所保健師	2月20日～3月6日
		荒木善光	広島大学大学院医歯薬学総合研究科助手	2月24日～3月10日
藤本真弓	県立広島病院医長	3月1日～10日		
業務調整	江口いずみ	広島大学大学院国際協力研究科	11月20日～12月25日 2月6日～3月10日	
	中井真理子	NGO「カンボジアこどもの家」	11月28日～12月18日	
	大田黒留衣	元青年海外協力隊員	2月15日～3月10日	

【2年次（平成18(2006)年度）】

〔前期〕平成18年11月22日(水)～12月17日(日)

〔後期〕平成19年2月9日(金)～3月2日(金)

区分	氏名	所属等	期間	
実務協議 ・ 総括	水本和実	広島市立大学広島平和研究所助教授	11月22日～11月29日 2月18日～3月2日	
	川北正明	県総務部国際室事業調整監	11月22日～12月1日	
	福原美百合	県総務部国際室専門員	2月11日～19日	
	奥江良二	県総務部国際室主任	2月23日～3月2日	
支 援 活 動	教育	岡寺裕史	県教委広島教育事務所指導主事	12月3日～17日
		池田武彦	県立教育センター指導主事	2月9日～28日
		桑山尚司	広島大学大学院教育学研究科助手	11月26日～12月10日
	保健医療	小林敏生	広島大学大学院保健学研究科教授	12月3日～12月10日
		白井睦子	安田女子大学家政学部助手	2月11日～2月26日
		米原雅恵	呉市保健所保健師	2月11日～2月26日
		荒木善光	広島大学大学院医歯薬学総合研究科助手	11月26日～12月3日
		藤本真弓	小網町麻酔科クリニック院長 (元広島県立病院医長)	2月18日～28日
業務調整	石井壮	元JICA青年海外協力隊員	11月22日～12月17日	
	山本伸二	元JICA青年海外協力隊員	2月9日～3月2日	

【3年次(平成19(2007)年度)】

〔前期〕平成19年11月26日(水)～12月18日(水)

〔後期〕平成20年2月9日(金)～3月5日(水)

区分	氏名	所属等	期間	
実務協議 総括	水本和実	広島市立大学広島平和研究所助教授	2月24日～3月5日	
	宮谷幸三	県総務部国際室主査	12月12日～12月19日 2月24日～3月5日	
	奥江良二	県総務部国際室主任	11月26日～12月9日 2月13日～3月1日	
支援 活動	教育	定宗讓二	県教委広島教育事務所指導主事	11月30日～12月15日
		木村通幸	県教委呉・賀茂教育事務所指導主事	2月16日～3月1日
		桑山尚司	広島大学大学院教育学研究科助手	11月26日～12月15日 2月13日～24日
		松永彩	広島大学国際協力研究科教育文化専攻	2月24日～3月1日
	保健医療	荒木善光	広島大学大学院医歯薬学総合研究科助教	11月26日～12月8日
		狩山聡子	呉市保健所保健師	11月30日～12月15日
		白井睦子	安田女子大学家政学部助手	2月16日～3月1日
西條恵美	呉市役所市民部下蒲刈支所	2月16日～3月1日		
業務調整	中井真理子	元NGO「カンボジアこどもの家」	11月22日～12月17日	
	青木純子	広島大学国際協力研究科開発科学専攻	2月15日～3月5日	

(3) 現地主要関係者

【カンボジア機関関係者】

内務省 Mr.Prum Sokha 事務次官

教育・青少年・スポーツ省 H.E. Im Sethy 事務次官

H.E. Mark Vann 事務次官

Mr. Hak Seng Ly (Undersecretary of State)

教育・青少年・スポーツ省初等教育局 Ms. Phannora Meng 副局長

教育・青少年・スポーツ省学校保健局 Mr. Pen Saroeun 局長

保健省 H.E. Eng Huot 事務次官

保健省国立健康増進センター Dr. Lim Thai Pheang センター長

Mr. Heng Limitry センター次長

シエムリアップ州教育事務所 Mr. Ung Serei Dy 副所長

Mr.Som Saro 副所長

Ms. Sy Sothy (ササースダムクラスター担当)

伊藤明子 JICAシニア・ボランティア

シエムリアップ州教員養成校 Mr. Leav Ora 校長

シエムリアップ州保健事務所 Mr.Dy Bun Chhem 所長

プク郡教育事務所 Mr. Sam Serey 所長

Mr. Kong Lang 副所長

Mr. Koam Sophas TG

Mr. Tith Tavrak TG

Mr. Hiak Chhy

アンコールチュム圏域保健事務所 Mr. Mak Sam Oeun 所長

Dr. Sao Sim 医師

ササースダム中核小学校 Mr. Kaob Reth 校長

Mr. Chchin Kimchea 校長

ササースダム保健センター Mr. Rem Rek 所長

Mr. Eng Sovan Dy 所長

#### 【日本人関係者】

JICAカンボジア事務所 鵜飼 彦行 次長

三次 啓都 次長

原口 明久 企画調査員

高橋 優子 NGOデスク調整員

NGO「地球の保健室」代表 越渡 恵美子

上智大学アジア人材養成研究センター 三輪 悟

阿部 千枝

#### (4) 活動内容

現地での活動に当たっては、常に校長先生、教員、郡教育事務所、地元保健事務所等の関係者と繰り返し打合せを行うことで、活動の意義を共有するとともに、次第に信頼関係を築いていくことができた。

#### 【平成 17(2005)年度】

実務協議・事前調整

支援活動実施に際し、現地関係機関と活動内容、日程等について協議、調整を実施した。

訪問先(プノンペン): JICAカンボジア事務所、教育省

(シエムリアップ): 州・郡教育事務所、州・圏域保健事務所、  
ササースダム小学校

教育分野:

##### ア 現状詳細把握

クラスター<sup>(注)</sup>内小学校において授業観察や校長、教員対象の学校経営及び教科指導に係るヒアリング等を実施(ササースダム中核小学校及びサテライト校7校の計8校)

##### イ 研修会の開催(計4回)

プク郡教育事務所及びササースダム中核小学校と連携して研修会の企画、運営  
学校経営に係る研修会の実施(2回)

(校長対象: テーマ「授業改善に係る授業観察の視点について」、

「人材育成に係る教員の指導のあり方について」)

---

(注) クラスター …… 中核校1校と周辺の複数のサテライト校で構成する学校群制度。教員研修なども中核校を中心にクラスター全体で行われる。

## 教科指導法に係る研修会の実施（２回）

（教員対象：テーマ「板書方法について」，

「算数の研究授業を通じた授業改善について」）

### 保健医療分野

#### ササースダムクラスター

##### ア 健康診断，栄養状態調査

アンコールチュム圏域保健事務所，ササースダム保健センターと連携して健康診断，栄養状態調査を実施

ササースダム中核小学校全学年（922名），クラスター内小学校長・教員（53名）の計975名

##### イ 学校環境調査

クラスター内小学校（8校）において実施

##### ウ 食生活調査

ササースダム中核小学校4，6年生対象のアンケートの実施

児童2名の家庭訪問実施

ササースダム中核小学校における給食調査の実施

##### エ 保健衛生教育に関する協議

ササースダム中核小学校，圏域保健事務所及び保健センターと小学校における保健衛生教育の実施について意見交換を実施

### 上智大学アジア人材養成研究センター

##### ア 健康診断，食生活・栄養状態調査の実施

アンコールワット遺跡修復作業員27名の

健康診断及び聞き取り調査

石工頭の家庭訪問調査

### 総括

活動終了時（3月）に，本年度の支援活動に対する総合評価を行うとともに，来年度以降の取り組み案について，カンボジア政府等関係機関と協議を実施した。



ササースダム小学校での活動状況  
(平成18年2月)

### 【平成18(2006)年度】

#### 実務協議・事前調整

支援活動実施に際し，現地関係機関と活動内容，日程等について協議・調整を実施した。

訪問先（プノンペン）：JICAカンボジア事務所，教育省

（シエムリアップ）：州・郡教育事務所，州・圏域保健事務所，

ササースダム小学校

教育分野：

ア 現況詳細把握

クラスター内小学校における授業観察やヒアリング等，学校経営及び教科指導に係る現況詳細把握を実施（ササースダム中核小学校及びサテライト校 7 校の計 8 校）

イ 研修会の開催（計 4 回）

ブク郡教育事務所及びササースダム中核小学校と連携して研修会を企画・運営  
学校経営に係る研修会を実施（2 回）

（校長対象：テーマ「計画的な学校経営改善の方法」，  
「学校改善アクションプランの策定」）

教科指導法に係る研修会を実施（2 回）

（教員対象：テーマ「教具（かずのブロック）の活用について」，  
「模擬授業の実施を通じた授業改善について」）

保健医療分野：

ササースダムクラスター

ア 環境・栄養調査

ササースダム中核小学校及びクラスター内の小学校（スパ・ホール小）における井戸・トイレの設置・使用状況などの衛生環境調査及び栄養調査を実施

イ 教員対象研修（栄養教育・応急処置）

ササースダム中核小学校における教員向け栄養教育研修の実施（教員 20 名参加）

カンボジア赤十字と連携による，ササースダム中核小学校における教員向け応急処置研修の実施（教員 19 名参加，圏域保健事務所，保健センター，教育省保健局参加）

ウ 個別健康教育（健康診断等）

ササースダム中核小学校において，地元保健医療機関及び教員との連携により身体測定，健康診断及び歯科衛生個別教育を実施（1，2 年生 149 名，圏域保健事務所，保健センター職員参加）

エ 保健衛生教育に関する協議

ササースダム中核小学校，圏域保健事務所や保健センターと小学校における保健衛生教育及び身体測定・健康診断の自主的かつ継続的实施について意見交換を実施

上智大学アジア人材養成研究センター

健康診断，食生活・栄養状態調査の実施

上智大学アジア人材養成研究センターにおける  
身体測定，健康診断を実施した。

（アンコールワット遺跡修復作業員 26 名参加）

総 括

活動終了時（3 月）に，本年度の支援  
活動に対する総合評価を行うとともに，

来年度以降の取り組みについて，カンボジア政府等関係機関と協議を実施した。



ササースダム小学校での健康教育  
(平成 19 年 2 月)

【平成 19(2007)年度】

実務協議・事前調整

支援活動実施に際し，現地関係機関と活動内容，日程等について協議・調整を実施

訪問先（ブノンペン）：JICAカンボジア事務所，教育省，

日本ボランティアセンター

（シエムリアップ）：州・郡教育事務所，圏域保健事務所，保健センター，

州教員養成校，ササースダム小学校

教育，保健共通：

ア 現況詳細把握

小学校における課題把握の計画的，組織的な取組みを促進

イ 研修会の開催（計 4 回）

学校経営に係る研修会の実施

（校長対象：「課題分析と組織マネジメント，タイムマネジメント意識の向上」，

「学校経営ビジョン（目標，取り組み方針）の具体化

「学校保健や学校環境に関する行動計画の提示と学校経営における保健分野の意識向上」

教科指導法に係る研修会の実施

（教員対象：「授業の狙いに応じた教材の作成と活用（算数と保健教育に係る教材，  
教具の作成，活用方法）」

「授業研究の実施（教材を用いた模擬クラスの実施と意見交換）」

ウ 合同協議会の開催

プロジェクトの取組みと成果評価に係る合同協議会の実施

総 括

活動終了時（3月）に，本年度の支援活動に対する総合評価を実施



ササースダムでの校長研修

(平成 20 年 2 月)

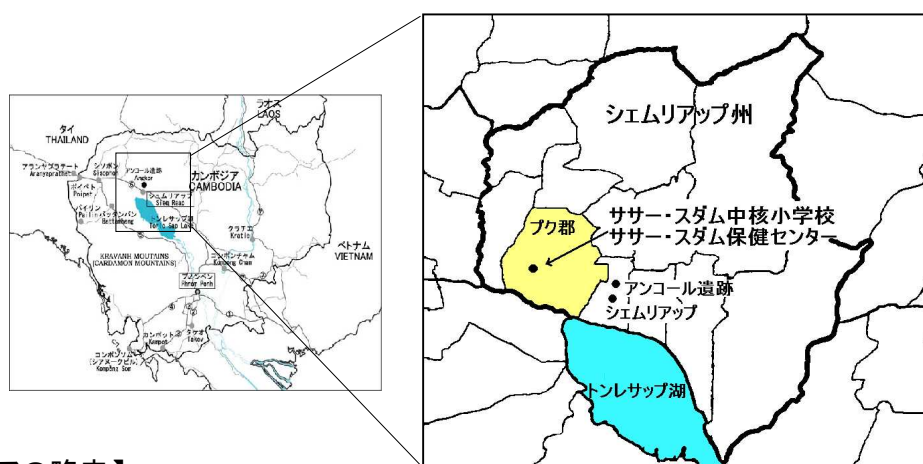
## 2 活動地域の概要

### (1) カンボジア王国

面積 18.1 万 k m<sup>2</sup> (日本の約 2 分の 1)  
 人口 1,380 万人 (2005 年 IMF 資料)  
 首都 プノンペン  
 言語 カンボジア語

### (2) シエムリアップ州

位置 カンボジアの北西に位置 首都プノンペンから 314 k m  
 面積 10,299 k m<sup>2</sup> (田園 19%, 住宅地 15%, 森林 52%, 空地 14%)  
 人口 696,164 人 (カンボジア総人口の 5.6%, 2001 年推定)  
 行政区 郡: 12, コミューン(町): 100, 村: 907



#### 【カンボジアの略史】

9～13 世紀	現在のアンコール遺跡地方を拠点にインドシナ半島の大部分を支配
14 世紀以降	タイやベトナムの攻撃により衰微
1884 年	フランス保護領カンボジア王国
1953 年	カンボジア王国としてフランスから独立
1970 年	反中親米派、クーデターによりシハヌーク政権打倒、王制廃しクメール共和国樹立 新中共産勢力クメール・ルージュ(K R)との間で内戦
1975 年	K R が内戦に勝利し、民主カンボジア(ボル・ポト)政権擁立、大量の自国民虐殺
1979 年	ベトナム軍進攻で K R 敗走、親ベトナムのプノンペン(ヘン・サムリン)政権擁立 以降、プノンペン政権と民主カンボジア三派連合(K R に王党派・共和派が加勢)の内戦
1991 年	パリ和平協定
1992 年	国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)活動開始
1993 年	UNTAC 監視下で制憲議会選挙、王党派フンシンペック党勝利、新憲法で王政復活 ラナリット第一首相、フン・セン第二首相の 2 人首相制連立政権
1997 年	首都プノンペンで両首相陣営が武力衝突、ラナリット第一首相失脚
1998 年	国民議会選挙、第一次フン・セン首班連立政権
1999 年	上院新設(二院制へ移行)、ASEAN 加盟
2004 年	第二次フン・セン首班連立政権発足 シハヌーク国王引退、シハモニ新国王即位、WTO 加盟、ASEAN 参加決定
2006 年	上院議員選挙

外務省ホームページ:「各国・地域情勢」カンボジア王国から抜粋

## 3 関係者の感想



(1) 県内の専門家

今回のプロジェクトをはじめ、県が実施した事前調査に専門家として参加していただいた方々に、参加にいたった経緯、感想等を寄稿していただいた。

**岸本益実さん**（広島県備北地域保健所長(兼)医監）

**【プロジェクトに参加した経緯】**

平成 15 年 3 月に策定された「ひろしま平和貢献構想」に記された、平和貢献の具体的モデルの「医療・公衆衛生分野」における事業の実施可能性の検討を行うための最初の派遣団への参加を、当時の国際企画室から打診された。

**【派遣の時期】**

平成 15 年 9 月（1 週間）、平成 16 年 10 月（1 週間）

**【現地での活動の具体的内容】**

平成 15 年は活動についての可能性調査（保健省など政府行政機関との交渉、地域 N G O 視察）、平成 16 年は活動拠点選定、具体的基盤整備（シエムリアップ州事務所・郡圏域保健事務所での調整、シエムリアップ州内数か所の保健センターの調査、教育分野と連携した活動）

**【カンボジアの現状についての感想】**

プノンペン、ポイペト、シエムリアップ、ササースダムなどで視察・活動を行った。当時はプロジェクトの先駆けであり、その後のいろいろな活動の展開の可能性を考えて、現地の N G O、政府、地域関係者との幅広いコンタクトに努めた。

**【実際に参加して何か得たもの】**

発展途上国での保健活動は初めての経験だったので、大変貴重な機会となった。一国の政府関係者、地域の専門家などと交渉しながら、事業を進めていく、得難い経験ができた。

**【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】**

平成 17、18、19 年度と、3 年連続で、カンボジア保健省から医系技官の先生方が広島に派遣され、研修事業が行われた。3 名の方々が来られたが、いずれも私の所属する保健所にも研修の一環として、一週間程度来られ、保健所における研修を実施した。カンボジアから広島に関係者に来て頂くことで、広島より多くの人に、国際貢献事業について知っていただけると感じた。

活動を通じて、政府関係者、N G O、教育関係者、保健医療関係者など、様々な出会いがあり、この活動に関わらせて頂いたことで、私自身の成長にも繋がったと考えている。

**狩山 聡子さん**（呉市保健所 保健総務課）

### 【プロジェクトに参加した経緯】

平成 15 年度呉市に合併前の川尻町保健福祉会議にて当時呉地域事務所の所長でいらした岸本益実所長よりカンボジア復興支援プロジェクトのお話を聞かせていただきました。その後 16 年度川尻町は呉市と合併となり、私も呉市保健所に異動となりました。そこへ当時の広島県国際企画室の後藤さんと大小田さんが来所され、派遣させていただくこととなりました。

私自身、平成 12 年度から 2 年間青年海外協力隊でアフリカのガーナで活動していたこともあり、岸本所長や後藤さん、大小田さんからプロジェクトの件を聞かせていただいたときとても興味をもちました。

### 【派遣の時期】

平成 16 年 10 月（2 週間）

平成 19 年 11 月～12 月（2 週間）

### 【現地での活動の具体的内容】

平成 16 年度は、事前調査として活動拠点の選定、具体的基盤整備、活動拠点予定場所（村と小学校）で健康教育実施。平成 19 年度は、クラスター内の現況把握、学校保健推進意見提示、健康教育教材普及、現地教師と健康教育実施。

### 【カンボジアの現状についての感想】

活動地域は、ほとんどがササースダムで、シエムリアップ、プノンペンも視察しました。途上国は、どの国でも言えると思われませんが、都市と田舎の格差がカンボジアも感じられた。また内戦の爪痕はまだ残っており、カンボジア人との会話のなかに内戦ということばがよくでてくることもあり、当然のことだと思いますが、人々の心には内戦の記憶が刻まれているのだなと感じました。

16 年度と 19 年度と派遣させていただきましたが、19 年度派遣時、街全体の印象が 3 年前に比べて発展しているなと感じました。シエムリアップの街も車両が増えており、郊外にもホテルや観光施設が建設されていて、活気がありました。ササースダムの学校も校舎がベルギー団体などからの支援で建設されており、また学校の前にあった池が埋められ校庭ができていたり、柵ができていたり、衛生安全上でも改善されており、うれしく思いました。発展し人々の生活が向上していくことは望ましいことだと思いますが、それに伴い自然破壊や温暖化も付随していくことは、悲しいことです。カンボジアも自然共存でエコロジーな発展を望みたいです。

### 【実際に参加して何か得たもの】

青年海外協力隊で海外での保健活動は経験ありましたが、ここでは一人の活動でしたので、自分対現地の人々という関係性でした。力的には微力でしたが、2 年という期間持続した活動をしました。

しかし、今回は広島県グループ対現地の人々という関係性で、大きな力を実感しましたし実際働いていたと思います。グループで実施していくことにより、様々なアイデアが提案され、作業分担でき、大きな影響が与えられたように思います。また、私は保健分野で

参加させていただきましたが、教育分野の専門家と活動させていただいたことにより、教育的な考え方も考えることができ、視野が広がったように思います。

今回参加された専門家との人脈も参加させていただいて得られたもので、このプロジェクトのおかげで、さまざまないい出会いができました。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

始めにこのプロジェクトの話をしていただいたとき、都道府県で国際支援を行っていくことは初めて聞き、大きな展望のあるプロジェクトなのだと感じました。実際プロジェクトが起動する前にも事前と調査の準備、また起動してから多くの人々が関わっており、多くの人の夢も受け継がれてきたのだなと思いました。

私自身協力隊での経験が冷めないうちに岸本所長とお会いし、プロジェクトのお話をいただき、職場の理解もあり、16年度、19年度と派遣させていただきました。また呉市保健所の後輩にもつなげることができよかったですと思います。

広島は63年前の原爆投下で破壊的ダメージを受けましたが、そんな中から復興してきました。その復興精神を神髄に活動できたのではないかと思います。一緒に活動させていただいた専門家の方たちもみなさん真剣に一所懸命活動されていました。この一所懸命の日本人の思いが少しでもカンボジアの人々に伝わっていたらいいなと思います。思いだけではいけないところはあると思いますが、熱い思いで活動できたことは、私自身もこれからの糧になると思います。ありがとうございました。

**西條 恵美さん**（呉市役所 福祉保健部保健所健康増進課 東保健センター）

### 【プロジェクトに参加した経緯】

上司からの推薦による。

平成19年度については、平成17年度に参加した関係もあり、広島県より依頼。

### 【派遣の時期】

1回目 平成18年2月20日～平成18年3月6日（2週間：平成17年度後期）

2回目 平成20年2月15日～平成20年3月1日（2週間：平成19年度後期）

### 【現地での活動の具体的内容】

平成17年度

児童への健康教育（身長・体重の概念について学び、自分の成長を知ることが目的とした教育）

児童への健康診断（ の教育での学びを深めることができた）  
、 とも保健センターの協力あり。

平成19年度

保健分野に関するヒアリング

クラスター研修での模擬事業実施教員との打ち合わせ

関係機関（州保健事務所・OD・HC）へクラスター研修・合同ワークショップの参加要請とスピーチ依頼

校長研修会にて学校保健について提案

### 【カンボジアの現状についての感想】

カンボジアの教育、特に活動地域は「これから発展していく可能性を十分に秘めている」という印象を受けた。ベルギーの団体からの支援で校舎が建て替えられたり、広島のNGOの協力で井戸ができた。ここに来る度に何かが変わって、どんどん発展しているのよ」と一緒にいたスタッフが言っていたように、この事が一番印象的だったことである。

その他、現地に行って感じたこととしては、とにかく日本はモノが溢れている。『あれが欲しい』『これが欲しい』と果てしない欲求がある。現地は便利なモノがない。学校にはコピー機や印刷機は日本では「あって当然の物」。けれども現地では写真屋やコピーショップに行かなければならない。便利なものがなくても、「今あるものでどう生活しようか？」と考える力があると思った。

また、子ども達の「学びたい!」という意欲は日本よりも圧倒的に強く感じられた。確かに、小学校に入学してストレートで卒業する割合は低い。しかし、自分が学校へ行くことができる間に学びたい気持ちを持って学習できる事は、その子どもにとって幸せであると私は感じる。嫌々ながら学校に行っている子どもが、もしかしているかも知れない。だが、私たちが派遣時に会った子どもは「学校へ行くことが好き!」という子どもがほとんどだった。勉強意欲がある現地の子どもたち。先生も元気になって「よし!教えるぞ」というやる気を引き出したい気持ちがある。

長時間の協議をなんども重ね、こちらの思いが伝わるか心配な場面もあったが、優秀な通訳の活躍と他のスタッフの適応力により活動はスムーズだったと思う。

現地の人柄というか、積極的に意見を言えない性格も手伝ってか「広島の言った通りに実施します」という姿勢が垣間見えることが何度かあった。しかし、再度相手に「やりたい事や意見を教えて欲しい」と質問すると、現地の人「オリジナル意見」が出てきた。国際協力において、支援側と援助を受ける側の立場というものは、対等でありたいと思う。

確かに広島側のねらいはある、しかしその狙い通り実施することが果たして、現地の人にとっていいことなのか?という疑問もあったが、最終的には現地の人が続いて実施することが必要と言うことに気がつくことができ、相手の主体性を尊重した活動になったと振り返る。

今後、ササースダム小学校のみ発展していくのではなく、他のクラスターの子ども達にも同じように教育を受ける・支援を受ける機会があればと思う。

### 【実際に参加して何か得たもの】

私はこのプロジェクトに参加することができたお陰で、いろいろな職種の人・考えの人・性格の人と会うことができた。派遣期間が終わる頃にはすっかりカンボジアが気に入って、日本に帰りたくないとさえ思ってしまった。

私がカンボジアで活動できたのは私ひとりの力ではなく、支えてもらった方々のお陰だと思っている。2週間の派遣期間は、かなりハードな業務内容であり正直な事を言えば、普段の業務よりもハードだった。しかし、いろいろな考えを吸収するには抜群の環境であったと思う。なぜなら、私の日常の業務環境は同じ職種の人・同じ考えをもつ傾向の集団

の中にいるからだ。事実、違う職種の人と話していると「この人は何を言っているのだろう？」と理解できないこともあり、そしてビックリすることもあり、自分の専門を他の専門家に説明するとき「なんで伝わらないのだろうか？」と思うこともあった。

この経験から他の人に伝える重要性に改めて気がつくことができたと思っている。このように、このカンボジアプロジェクトに参加・派遣により、私自身も大きく成長したと思う。2週間という短い間に、生まれた他のスタッフとの「運命共同体」の様な連帯感。ハードなスケジュールを共に乗り越えてこそ、生まれた物があると思う。一緒に活動をしたメンバーと「10年後のカンボジアはどうなっているのかな？10年後、見に行こう！」と約束していた事が懐かしい。そう、10年後、お互いの家族と共にまたこの地へ行こうと決めている。その頃のカンボジアはどんな風になっているのだろうか？そして、出会った子ども達は、先生は元気で生活しているだろうか？広島と行った活動が、少しでも継続されていけばそれは一番の「効果」ではないだろうか。

『世界全体をみる広い視点で、地域を見る』これは私の仕事における、一番好きな言葉だ。これからも、このカンボジアプロジェクトに参加して学んだこと・感じたことを忘れないで生きていこうと思う。

#### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

今後、持続可能な援助としてももちろん物資の援助もあるが、人材育成という点を重視した活動が効果的ではないかと考える。私は、日本で保健分野の現場しか知らなかったが、2回の派遣を通じて国こそ違うが、やる気のあるスタッフがいることを嬉しく思った。能力のある人材を育てていくことが、今後のカンボジア全体の発展に繋がっていくと思う。

この3年間の活動またはこれからの活動について、広島県民へもっとPRできればと思う。例えば、3年間のハイライトを新聞に掲載、フラワーフェスティバルなど祭りの時に参加メンバーや関係機関のJICA/NGO、その他興味のある人たちでパネル展・写真展や広報をしても面白いのではないと思う。派遣者として、日常的にできることはこの活動を幅広い人に伝えていくこと。業務の中で、プライベートの中で、いろんな機会を「チャンス」として捉えていきたいと思う。

白井 睦子さん（安田女子大学 家政学部管理栄養学科）

#### 【プロジェクトに参加した経緯】

平成17年6月頃に安田女子大学の箱田雅之教授の紹介で県庁から後藤昇さん、坂上隆士さん、山口涼さんが大学に来られ、カンボジア復興支援プロジェクトの内容を聞き、興味を持ち、栄養の専門家として参加することになった。

#### 【派遣の時期】

- 1回目：平成18年2月20日～3月5日
- 2回目：平成19年2月11日～25日
- 3回目：平成20年2月15日～3月1日

#### 【現地での活動の具体的な内容】

1 回目：「ササースダム小学校の児童の健康診断と食生活調査」

ササースダム小学校の児童に健康診断を行うことの意味などを説明するための媒体を作成した。

食生活についての聞き取り調査及びアンケート調査を4,6年生を対象に行った。

2 回目：「ササースダム小学校の教員を対象にした栄養教育および児童の健康診断」

ササースダム小学校の教員を対象にした栄養教育を現地の保健センターのナースと協力して行った。

3 回目：「ササースダム小学校クラスター校の保健衛生に関する聞き取り調査」

「食べ物と安全に関する授業内容の指導」

「公開クラスター研修会および学校経営合同協議会」

ササースダム小学校のクラスター校を訪問し、保健衛生に関する聞き取り調査を行った。

ササースダム小学校の6年生の担任の先生とクラスター研修会で行う模擬授業内容について打ち合わせをし、保健センターのナースにも参加してもらい、授業内容の指導を行った。

クラスター研修会において保健の模擬授業についての指導助言及び教材紹介を行った。

### 【カンボジアの現状についての感想】

私が最初にカンボジアに行った平成18年2月は、ササースダム小学校の校舎は古く、トイレは2つだけで使われておらず、十分な水を得ることができる井戸もなかった。しかし、1年後の平成19年2月に行った時には、新しい校舎、トイレ、井戸が完備され、手洗いや歯磨き指導なども行われており、平成20年2月には、小学校で健康手帳を作り、身体測定の実施を行っていた。ササースダム小学校は3年間でいろいろな団体からの支援を受けて教育環境および保健衛生環境は向上した。また、教員の教育への意欲や児童の健康への関心も高まっていることを感じた。これは広島県カンボジア復興支援プロジェクトの成果だと思う。

### 【実際に参加して何か得たもの】

カンボジア復興支援プロジェクトの活動を通して、多くの人に出会い、多くのことを学ぶことができ、これらの経験は大学での研究教育活動に大いに役立っている。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

広島発のカンボジア復興支援プロジェクトは専門家が各自の専門性を生かし、また専門を超えていろいろな人と協力し、カンボジアの復興支援を行う素晴らしいプロジェクトだと思う。

米原 雅恵さん（呉市保健所 健康増進課 音戸保健出張所）

#### 【プロジェクトに参加した経緯】

呉市保健所に保健師の派遣依頼があり，カンボジアの公衆衛生活動について興味があったので参加したい旨申し出，推薦を受けました。

#### 【派遣の時期】

平成 19 年 2 月 11 日～2 月 26 日

#### 【現地での活動の具体的内容】

健康教育：小学校1，2年生のクラスに赴き，歯科保健に関する集団衛生教育を行った。

健康診断：小学校1，2年生を対象に身体計測，医師診察等を行った。身体調査も含める。

保健指導：健康診断の最後に歯磨きの方法，口腔内保清の必要性，手洗いの重要性について等，個別指導を実施した。

これらの活動は地元の保健センターや医師などと連携を取り実施した。

#### 【カンボジアの現状についての感想】

カンボジアは内戦が続き，停戦後の歴史もまだ浅い国である。都市部の社会的基盤はまずまずのレベルであったが，今回活動の拠点となったササスーダム地域は食べることに，生活することが精一杯という感じであった。

例を挙げると，水を確保するために遠くの池に一家総出で汲みに行ったり，魚一匹を家族10人が分け合ったりということがみられ，人間の生きる基本の衣食住を全うするために生活のほとんどを費やしているという感じであった。そういう中，学校で学んだ知識が生活を向上させること，ひいてはよりよく生きること的手段に大きく影響していることを確信した。ついては今回のような派遣支援が彼らの生活向上に大きく役立つのであり継続して実施していく必要を痛感したところである。

#### 【実際に参加して何か得たもの】

日本でどんなに机上の議論を重ねても現地での必要性は未知なところもあり，実際に現地へ赴いても一転二転することがありました。この活動を通じて保健師活動の基本である地区踏査の必要性を再確認した次第です。今回行った健康教育や保健指導は様々な支援の中の小さい単位かもしれないが，投石が波紋を呼ぶように，子どもたちには素直に響いていたと思います。家族で協力しあい，笑顔いっぱいの子どもたちを見ると本当の意味の幸せとは何だろうと考えさせられました。日本の子どもたちは物質的には恵まれているけれども「果たして幸せだろうか??」と。

また，このプロジェクトを通じて多種多様な職種の人たちと出会い関わりを持つことができたことは自分自身の視野や考え方を大きく広げる事となりました。

地球は一つ！国は違えども同じ星に住む人間として平和でよりよく生きることはすべての願いであります。日本が戦後復興を遂げ現在があるように，カンボジアも今後すばらしい国となることが期待できる力を持っていると感じました。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

プロジェクト終了後も、現地や学校が自ら動くことができるようになる支援と知識の伝達が必要と感じました。カンボジアの持っている力をコーディネートしていくことが今後大きく影響すると思います。

松永 彩さん（広島大学 大学院国際協力研究科教育文化専攻博士課程前期2年）

### 【プロジェクトに参加した経緯】

平成20年2月期におけるカンボジアへの専門家派遣に係る欠員補充のため、大学院の担当教官を通して本プロジェクトのお話を頂き、参加させて頂きました。

私自身は、元々教育分野における国際協力に関心があり、数学教育協力を大学院で学ぶため4月に広島に来たばかりでした。

かつて青年海外協力隊に参加し、ケニアの中等学校において理数科教師という立場で活動した経験がありましたが、他の途上国における数学教育は、私にとって現実感のない机上のものでしかありませんでした。そのため、数学教育の専門家のアシスタントとしてカンボジアのプロジェクトに参加させて頂けるというお話は大変魅力的で、一寸の迷いもなく参加を決意しました。

### 【派遣の時期】

平成20年2月

### 【現地での活動の具体的内容】

主に教育班の専門家として派遣された木村先生のアシスタント

- ・視覚教材などの製作
- ・協議会の冊子制作補助
- ・アンケート集計
- ・報告書の制作補助 など

### 【カンボジアの現状についての感想】

途上国には共通する問題点があるとの認識から、カンボジアの学校は、日本よりもケニアの学校に似ているのではないかと思っていました。ところが、カンボジアの学校は教室の中がピカピカに掃除されていて、綺麗に装飾されており、人の振る舞いもどこか日本人に共通するものがあり、むしろ日本に似ていると感じました。「同じアジア」とはこういうことをいうのでしょうか。

また、カンボジアの人々は、アンコール遺跡に見られるようなかつての素晴らしい文明に存在した文化を、多かれ少なかれ継承してきているのではないのでしょうか。20年に渡る内戦のために出遅れてはいるものの、今後の飛躍的な発展を予感せずにはられませんでした。

### 【実際に参加して何か得たもの】

日本において現役で活躍されている指導主事の木村先生に同行し、教育のプロとしての視点や考え方を間近で見させて頂いたことは、本当に勉強になりました。



私の目指している国際教育協力は、国際協力の分野と教育の分野が重なり合っている部分です。どちらの分野においても恥ずかしくないような考え方のできるプロになれるように、頑張っていきたいと思いました。現地のニーズを正確に把握し、的確なサポートを企画し、実践して行けるような人になりたいです。

このプロジェクトに参加して、自分の夢を再確認できました。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

カンボジアと広島双方にとって、とても良いプロジェクトだと思いました。カンボジアにとっての利点は、主に二つ考えられます。一つは、ごく一般の日本人が専門性を武器に、その専門家としてカンボジアに来るわけですから、同業者として悩みをシェアすることもでき、カンボジア人にとってはアドバイスも素直に受け入れ易いのではないのでしょうか。あと一つは、人的支援の強みで、実際に人が来て一生懸命自分たちのために何かをやってくれば、余程迷惑なことでない限りは、自分たちも頑張ろうという気になります。顔の見える距離における親切は、それだけで励みになると思うのです。

次に、広島にとっての利点ですが、県レベルのプロジェクトなので、県民が気負いなく参加できるといえるのではないのでしょうか。当然と思っていたことが外国では特別なことだったりするので、日本のよさを再発見することもあります。

このような経験を分かち合い、県民一人ひとりが国際感覚を身に付けることで、ヒロシマに来る外国人の方々にも良いおもてなしができるでしょうし、それが平和を発信することなのだと思います。

定宗 讓二さん（広島県教育委員会事務局 教育部 指導第一課）

### 【プロジェクトに参加した経緯】

カンボジア復興支援プロジェクトには、県教育委員会から毎年2名参加している。前任者のこれまでの取組みを引継ぎ、後任として、本プロジェクトに参加した。

### 【派遣の時期】

平成19年11月30日（金）～12月15日（土）

### 【現地での活動の具体的内容】

ササースダムクラスタの学校訪問

平成19年2月に作成した学校経営計画の実施状況の把握を行うとともに、各校の取組みや課題の把握を行った。

校長研修会（平成19年12月11日（火））の実施

現地教育事務所と連携を図り、小学校長を対象に、平成19年2月期の研修成果である学校経営計画の実施状況を各学校で整理し、解決すべき課題に関する共通の認識を持たせることや、学校経営に必要な課題分析、組織マネジメント、タイムマネジメントに関する意識を向上させる目的で研修会を実施した。

現地教育事務所と連携を図りながら、「学校経営計画の実施状況の報告及び交流」「課題別のグループ協議」「改善計画の作成」について研修を進めた。また、学校保健に関する提案を広島側から行った。

クラスター研修会（平成 19 年 12 月 13 日（木））の実施

現地教育事務所及び関係校長と連携を図り、小学校教員を対象に、教材の目的及び作成方法の理解を図ることや実際の授業での活用方法に身に付けさせることを目的に研修会を実施した。

研修では、算数科の教材（数のカード、フラッシュカードなど）や学校保健や学校環境に関する教材の作成を実際に行った。教材の活用法については、模擬授業形式で指導をした。また、教員も実際の教材を使った模擬授業を行った。

### 【カンボジアの現状についての感想】

各国から多くの支援が入っているが、農村部においては支援が届いていない地域も見られる。

同じ地域内の小学校においても、学校の設備等の差が大きい。

### 【実際に参加して何か得たもの】

海外に一度も行った経験のない私が、このプロジェクトに参加したのは、プロジェクトにやりがいを感じたからである。カンボジアの教育を体感でき、その教育の指導の一端を担うことができるという経験は、私にとっては、二度とないチャンスである。責任も重いがやりがいのある仕事である。その活動の中で、私は、多くのことを勉強させていただいたが、一番の財産は、カンボジアの教育関係者、現地協力員及びスタッフが絶えず心に持っているカンボジアへの熱い思いを直接感じ、私自身もその思いを共有し、仕事ができたとである。復興支援をことばでなく、人々の思いを肌で感じながら、活動ができたことが大きな財産である。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

カンボジアには、各国から様々な支援が入っているが、この広島のプロジェクトの一番の良さは、現地と一体化した支援を行うことにあると思う。現地の学校を訪問する中で見た「部屋の隅にあった新しい黒板」、「棚の中に収納された教材」が私の頭の中に今でも残っている。折角の教具や教材も活用されることなくそこにあった。

これまで、広島の教育班は、学校訪問を行い直接の教育支援を行うとともに派遣の度に校長研修会やクラスター研修会を実施し、現地の教員の方とともに学校経営計画の作成、授業研究による指導法の研究、教材を活用した授業づくり等を行った。現地で活動していない時にも、この活動を継続できることを意識して取り組んできた。

このことは、私たちだけでなく、現地の教員の方にも意識して取り組んでいただいていた。実際に、2年目の研修で指導した「数のブロック」は、1年後に私が派遣されたときにも使用されていたし、前期に私が研修で作成した教材も学校で使用されていたそうである。支援に行っているときだけでなく、その支援が現地の教育活動となって続いていました。これが広島のプロジェクトの良さだと思う。

また、この取組みが日本でも広がり、日本からの多くの「数ブロック」が、カンボジアに送られている。きっと多くの学校の児童が目を輝かせながらブロックを使って授業を受けていると思う。この現地と一体となった取組みを進めることができたことがこのプロジェクト成果であると思う。

木村通幸さん（広島県呉・賀茂教育事務所指導主事）

### 【プロジェクトに参加した経緯】

カンボジア復興支援プロジェクトに係り広島県総務部国際室から県教育委員会総務課を通して派遣依頼を受けたことによる。

### 【派遣の時期】

平成 20 年 2 月 15 日(金)～3 月 1 日(土)

### 【現地での活動の具体的内容】

校長による学校経営の改善及び小学校教員の教科指導法改善に向けた指導

校長による学校経営の改善に向けた指導等については、次のとおりである。

ア 5 小学校への訪問による学校経営状況（前期派遣におけるヒアリング及び指導を受けた後の取組み状況）のヒアリング及び校長研修会に向けた打合せ

2 月 16 日(土) ムクペン小学校における学校経営状況ヒアリング

郡教育事務所指導主事の指導のもと、定期的に授業観察を実施したり、校長が授業案のサンプルを提示したりしている。

校長の学校経営ビジョンを具現化するため、課題の改善に向けた具体案を提示する取組みについて助言した。

2 月 18 日(月) イーアン小学校における学校経営状況ヒアリング等の打合せ

教員の指導力向上に向け、校長による授業観察や週 1 回教員の会議を実施し、授業改善を図っている。学校地域サポートチームと連携し、学校経営についての理解と協力を得ている。

指導や協議内容を文章化すること、教員の役割分担を明確にすること、日常的に事業改善に向け話し合う機会をもち、意見をシェアすること等について助言した。

校長研修会に向け、プレゼンテーションの内容を「教員の指導力向上」「教員の学校経営への参画」「地域の自然・農業・産業・文化を取り入れた授業」「地域を巻き込んだ学校経営」の 4 項目に整理していった。

2 月 20 日(水) トラキット小学校における学校経営状況ヒアリング

村人の寄付と州の支援により鉄条網、門扉が設置されていた。教員の役割分担による学校経営の組織化が図られている。

2 月 22 日(金) バンカオン小学校における学校経営状況ヒアリング

地域や他の校長からの日常的な支援が得にくいこと、支援を受けた施設等が活用できにくい状況にあること等の課題があがった。

校長会やクラスター研修等で相談することについて助言した。

2 年生の児童に対して、計算ブロックを使った模擬授業を実施するとともに、計算のブロックを贈呈した。

2 月 23 日(土) ササースダム小学校における学校経営状況等に向けた打合せ

進捗状況をレポートにより整理、課題の明確化と改善への立案等役割分担による経営の組織化が図られている。一方、チャイルドカウンセリングチームは結成し、情報が共有化されるようになったが、機能化に課題がある。

校長研修会に向け、プレゼンテーションの内容を「学校経営の組織化」「人材育成」に焦点化することを確認した。

イ 校長研修会（2月26日実施）の実施

ササースダムクラスター内の12名の校長及び副校長が参加する。

2 小学校長によるプレゼンテーション及び学校要覧の作成を行う。

2 小学校長から、「学校の組織化と人材育成」及び「特色ある学校経営」に係るプレゼンテーションが行われた。

学校経営目標達成のため、学校要覧を作成する演習を通して、課題の改善に向けた取組みの整理や改善方策の焦点化が図られた。

成果・課題の報告、文章化による記録の必要性、校長がリーダーシップを発揮して課題に取り組むことの重要性について指導した。

小学校教員の教科指導法改善に向けた指導は次のとおりである。

ア クラスター研修に向けた研究授業実施者への指導

2月16日(土) ササースダム小学校における算数の授業実施に向けた指導

ねらい達成のための現地で調達可能な教材の工夫や算数的活動、数学的な考え方や表現方法等について指導助言する。

イ ササースダム小学校における計算ブロックによる指導

2月26日(火) ササースダム小学校1年生算数の授業観察及び指導助言

ねらいの明確化、具体物から半具体物、数を関連づけた指導、10のまとまりを意識させるための計算ブロックの有効的な活用等について指導した。

また、現地調達可能な材料からできる教材の開発について、ペットボトル等具体物を提示しながら説明した。

クラスター研修及び合同発表会については次のとおりである。

2月28日(木)までに

クラスター研修及び合同発表会に向け、資料(要項)、紹介する教材、実践提案の翻訳及び要約作業を行った。

ササースダム小学校におけるクラスター研修及び合同発表会の実施

州教育事務所副所長、郡教育事務所所長をはじめ、ササースダムクラスター内外の教職員約90名の参加があった。

ア クラスター研修について

2月28日(木) 午前、「教材を有効に活用した教師の授業力向上」をテーマに、授業参観の視点の確認、授業参観、視点に沿った研究協議、協議内容の発表を行った。

学習展開や児童への肯定的評価等のよさや学習課題の明確化等の課題について活発に意見が出された。

かけ算を視覚的に理解する教材、和や積のカードを利用したゲーム、ペットボトルを再利用した教具を紹介した。

イ 合同発表会について

2月28日(木) 午後、2小学校校長から学校経営に係る実践提案を、OD所長から「教育と保健の関わり」について、保健センター所長から「日常的な取組み」についてプレゼンテーションが行われた。

## 【カンボジアの現状についての感想】

施設設備等においては、各国からの支援を受け、校舎が建築されたり、校庭が整備されたり、井戸が新たに掘られたり等整備されつつある。黒板や教材等も整いつつある。

しかし、校舎や教員が不足しており、野外で授業をしたり、教材研究をする時間が取れなかったりする状況がある。

また、教科書が全児童に行き渡らない状況や医療薬等の不足、また、井戸があっても、泥水であり、そのまま使えない等課題がある。

教員の給与水準は低く、保護者や地域の学校経営に対する理解が難しい等の課題もある。

児童は、純粋であり、恥ずかしがりやのところもあるが、活発に活動し、新たなことに対してはとりわけ、興味・関心の度合いが高い。

副校長がいる学校は少なく、校長一人が、学校経営全体を行っている学校が多い。校長による学校経営に関しては、3年間のひろしまからの支援を受け、PDCAのマネジメントや経営の組織化、人材育成の重要性について理解を得てきつつあると考える。

授業観察による指導記録をとったり、授業改善を図るミーティングを定期的に行ったり等具体的な取組みを行っている校長もいる。しかし、教員数の不足や時間の確保ができていないこと等から取組みが進んでいない学校もある。

そのような厳しい条件の中でも、熱心に、教材開発をしたり、授業研究をする教員も多くいる。

とりわけ、校長にビジョンを聞くと熱く語る方が多い。教育が将来のカンボジアという国を支え、発展させるという責任と夢のある学校経営を今後も強く望むところである。

## 【実際に参加して何か得たもの】

このプロジェクトに参加するまで、カンボジアについては、内戦という歴史的な事実や復興に向けた支援の断片は知識として得ていたものの、現状についての理解は不十分であった。

今回、カンボジア復興支援プロジェクトに参加して、現状における課題の把握や支援のあり方について深く考えさせられた。なかでも、先生や子どもたちとの交流の中で、「どんな学校にしたい」「どんな子どもに育ててほしい」というビジョンや夢の実現に向けて、「今、何ができるのか。」ともに考えることができた。

物資を支援することも大切であるが、今後、(支援の有無に関わらず)現地で調達でき、教員が自ら教材開発をしたり、活用したりできるアイデアを助言することの重要性を再認識することとなった。

とりわけ、物資以外の部分での支援の重要性について、校長に対しては、組織的で機能的な学校経営のあり方を、ヒアリングを通して、課題を整理し、ともにアイデアを生み出すということ、教員に対しては、日本における授業研究の仕組みを参考に授業改善にむけた方法の理解を図ること等目に見えない(形には表れない)部分の支援のあり方について考えさせられた。

コミュニケーションの重要性については言うまでもないが、言葉は通じなくても、理解を得るために、時間をかけて話し合うこと、そして、その意味や価値について理解を得、実践への意欲につなげること等、少しでも力になることができるという喜びを得た。

今回の大きな目的にクラスター研修と3年間のプロジェクトのまとめとしての合同発表会の実施があった。「いいものを残したい」の思いで、プロジェクトチーム内でも、度重なる打合せを行った。

形に残るということで、要項（冊子）の作成に取り組んだもの、原稿がなかなかそろわず、夜に作業をすることも多かった。そのような中、現地の通訳も加わって完成させた。目標の実現に向けたプロジェクトのチームワークの力だと思う。

最後に、どの学校に行っても、温かく迎えていただいた。ことばの端々に感謝の言葉を聞いた。飾ったものではないが、スーッと心に入ってきた。2週間余りの滞在ではあったが、今でも、その時々光景は脳裏に焼きついている。

貴重な機会を与えていただいたことにあらためて感謝したい。

### 【活動を終えて、広島発のカンボジア復興支援についての感想】

平成15年度の現地調査から始まり、平成17年度から3年間教育・医療分野の専門家を派遣したプロジェクトでは、現地のニーズを的確に把握し、長期展望にたった支援を継続的に行ったところに意義が大きいと思う。

物品だけでなく、目的の達成のための手段や方法を支援するという復興支援のあり方について、再認識した。

また、州や郡の教育事務所の支援を受けたこと、クラスター内外に成果を発信、普及を図ったことは大きな成果といえる。

依然、施設面や教員の不足といった課題に加え、クラスター研修のさらなる充実や学校経営に対する継続的な支援といった今後に向けた支援の有り様について考えていく必要がある。

## (2) 現地関係者

**CHIM SOPHARO さん**（カンボジア保健省 学校保健局 副局長）

### 【今回のプロジェクトに関わった時期】

2005年～2008年

### 【プロジェクトの関わり方、役割】

現地の保健当局と協力して、保健教育において技術的なアドバイスを行いました。

### 【プロジェクトを通じて得たもの】

プロジェクトの進め方、日本の文化や業務のやり方について学びました。

### 【今後、広島からの支援に期待すること】

カンボジアの子どもたちのための学校保健を進めるに当たり、より共同した深い関係を築き上げたい。

カンボジアと日本の間で健康増進のための経験やノウハウを受け入れたい。

## 4 活動の成果と今後の展望

### (1) 活動の成果

今回のプロジェクトを通じて、州の教育事務所から、「州の他のクラスターのモデルにした  
い。」との評価を得て、また、保健医療分野においても、現地の学校と保健医療機関と一緒に健  
康診断や研修を行ったことから、両者の垣根が少しずつ取り払われ、保健センターの保健師さ  
んからも、「プロジェクトのおかげで、保健センターによる児童の無料診断が徹底された。」と  
の声があがった。

学校経営について

#### 【達成状況】

クラスター内の校長に対する研修を通じ、人材育成の重要性や、課題把握に関する認識  
の向上を図ることができた。

段階的に、課題解決に向けた具体的な計画策定や、その計画策定に取り組むための時間  
軸設定や、組織的な取組みに係る視点を持たせることができた。

#### 【具体的事例】

・カンボジア側が主体となるクラスター(教員)  
研修会に基盤が構築され、3年次の合同協議会  
において、現地校長による組織化と人材育成の  
視点が盛り込まれた取組み状況のプレゼンテ  
ーションが行われた。

・研修を通じて、学校経営計画が作成され、学  
校内の役割分担や時間軸を念頭においた改善計  
画が作成された。



クラスター合同協議会での活動状況

(平成 20 年 2 月)

教科指導法について

#### 【達成状況】

研修を通じて、授業観察や模擬授業などの授業研究手法や、教材を活用した授業スタイル  
を提示し、授業改善に向けた意欲の向上につなげることができた。

教科指導に係る課題を抽出し、その課題を郡教育事務所及びクラスター内教員と共有す  
ることができた。

「教師主導の講義形式の授業から児童主体の問題解決型の授業転換」に向け、課題意識  
を持たせることができ、教材や磁石黒板を活用した指導方法等について自主的な研修が実  
施された。



クラスター合同協議会の状況

(平成 20 年 2 月)

#### 【具体的事例】

・半年間の自主的な研修計画が立案され、  
定期的な教員研修会が行われ、教員の授業  
能力の向上に関する意識が高まり、教員の  
積極的な参加が見られるようになった。

・教材を活用した模擬授業等を通じ、児童  
にわかりやすく楽しい授業を工夫しよう  
という意識が高まった。

## 学校における保健分野の取組み促進

### 【達成状況】

健康診断や校長研修会を通じ、児童の健康と安全を守る視点が学校経営の中に盛り込まれ、栄養、衛生教育に関する講習、研修実施を通じて教員の保健、衛生に関する知識と意識の高揚が図られた。

保健センターやアンコールチュム圏域保健事務所など、地域の保健機関との協働（健診、研修実施）を通じ、学校と保健機関の連携の契機となった。

### 【具体的事例】

- ・身体測定を独自で実施したり、健康診断を計画的に行うなど、児童の健康管理に関する意識の高まりが確認でき、また、現地と協働で取り組むことで、学校が身体測定を実施する際のノウハウの蓄積につながった。
- ・学校内（クラスごと）の健康記録手帳の整備と、保健センターにおける学校内でのケガ等の無料診断が徹底された。
- ・校長研修において、学校保健チェックシートを配付し、また、校長研修において、学校の課題として保健衛生面が挙げられるなど、学校経営に保健分野への関心が高まった。



ササースダム小学校での健康診断  
(平成 17 年 11 月)

### その他

#### 〔かずのブロック支援〕

本プロジェクトの実施に当たり、算数教材「かずのブロック<sup>(注1)</sup>」の支援要望があったため、(財)ひろしま国際センターを中心に、ひろしま国際貢献ネットワーク<sup>(注2)</sup>を通じて幅広く募集を呼びかけたところ、約 1,400 個のブロックが集まった。



県内各地から(財)ひろしま国際センターに集められた「かずのブロック」(平成 19 年 11 月)

集まったブロックは、JICA「世界の笑顔のために」プログラムを利用し、ササースダムの小学校に送付し、現地の小学校で活用されている。

また、広島でも、ブロック収集と併せて、小学校の総合学習でカンボジアの状況などを学ぶ機会が設けられるなど、国際理解の促進が図られ、本プロジェクトの広報周知につながった。



広島から送られた「かずのブロック」を手にするカンボジアの児童たち (平成 20 年 2 月)



## 〔カンボジア・スタディーツアー〕

(財)ひろしま国際センターが実施しているスタディーツアーの視察先に、本プロジェクトサイトが組み込まれ、ツアー参加者と児童、住民、教員との交流の機会を提供したことにより、草の根レベルの交流が広がり、また、県内大学生の国際貢献意識の高揚に寄与することができた。

## (2) 今後の展望

今回のプロジェクトは、国際平和協力への具体的貢献を図るために策定された「ひろしま平和貢献構想」の中の復興支援プロジェクトとして、検討段階から県内外のNGO、教育機関、教員経験者、医療機関、保健所等、様々な主体が関わり実施された地域発の国際貢献活動であり、現地関係者とともにより上げる支援活動として、多くの成果を挙げることができた。

この間、プロジェクトで取り上げた算数教材「かずのブロック」を県内の小学校を中心に収集し、現地に支援する取り組みを始め、県内の複数の団体、個人においてカンボジアへの支援の機運が醸成されるなど、県民の活動へと広がり、特に教育現場においては、カンボジアへの支援活動を通じ、国際理解を進めようとする動きがあり、その波及効果については、今後大いに期待できる。

保健医療分野においても、学校と保健医療機関との連携の促進や、学校経営における保健分野の視点の導入が図られるなど、今後、カンボジアの各地への波及効果が期待できる成果を挙げることができた。

このプロジェクトは、国際援助機関や大規模なNGO等の支援と比較すると、人員、経費、活動期間とも、決して大規模なものとは言えないが、広島から一方的に与えるのではなく、こちらの意図を伝え、カンボジアの人々とともに考え、活動の目的、必要性を理解してもらった結果、これからのカンボジアの人々による持続的な活動に結びつくものと期待している。

現在、広島県においては、県民参加によるひろしま発の国際貢献活動を推進する仕組み「ひろしま版プラットフォーム」の構築に向け、平成19年2月、「ひろしま国際貢献ネットワーク」を立ち上げ、県民や企業、団体等の参加促進活動を行っている。

そのモデルケースとして、カンボジアを舞台に様々な主体による支援活動を促進することとしており、今回のプロジェクトを起点として県内における国際貢献活動のより一層の活性化につながるものになると考えている。

---

(注1) かずのブロック … 日本の小学校低学年向けの算数教材「算数セット」の中の教具の一つであり、「りょうめんブロック」、「計算ブロック」とも呼ばれる。磁石入りブロックやブロック用ケース、ブロックカードの入ったセット。

(注2) ひろしま国際貢献ネットワーク … 災害発生国や紛争終結国の被災者支援など、ひろしま発の国際貢献活動を推進するために、平成19年2月、県内の経済団体、社会教育団体、大学等を中心に27団体で構成された組織。

カンボジア復興支援「元気な学校プロジェクト」報告書

平成 20(2008)年 8 月策定

発行 広島県

編集 広島県総務局秘書広報部国際課

〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号

T E L 082-513-2366

F A X 082-228-1614

E-mail [soukokusai@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:soukokusai@pref.hiroshima.lg.jp)